

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

鳥取県立米子東高等学校

重点項目	英語教育重点校	提出日	令和4年4月19日
------	---------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>1 主体的な学びの推進</p> <p>(1) アクティブ・ラーニング等による授業改善と適正な評価</p> <p>(2) SSH事業による科学的探究心・情報発信力・実践力の育成</p> <p>(3) 進路指導の充実</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>(1) 主体的・自律的態度の育成</p> <p>(2) 部活動の奨励</p> <p>(3) 体験的な学びの推進</p> <p>3 地域に信頼される教育の展開</p> <p>(1) PTA活動の推進</p> <p>(2) 地域への発信</p> <p>4 働き方改革の推進</p> <p>(1) 時間外業務時間の削減</p> <p>(2) 会議の精選</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>1 知識・技能を確実に習得させ、それらを活用して、自分の力で考えをまとめ、相手が理解できるように根拠を示して説明できる思考力・判断力・表現力を重視した授業を行う。</p> <p>2 「生徒に何を教えるか」という知識の質や量とともに、「生徒にどのように学ばせるのか」という学びの質や深まりを重視した授業を行う。</p> <p>3 AI社会に対応して、ICTを活用した「アクティブ・ラーニング」型授業によって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。</p> <p>4 「関心・意欲・態度」や「思考力・判断力・表現力」について、生徒の学習活動におけるパフォーマンスから評価する「パフォーマンス評価」を行うことによって可視化し、全体の評価に反映させる。</p> <p>5 国際交流事業をとおして、体験的な学びを推進するとともに、コミュニケーション能力や友好関係を築く担い手を育成する。</p>	<p>1 オール・イングリッシュの授業に努めるとともに、思考力・判断力・表現力を伴う場面や活動を授業内に取り入れることを継続して行っている。</p> <p>2 学年ごとの教科会を頻繁に実施し、教材や題材の分析や生徒の学習活動を精査することで、組織的、計画的に深い学びのできる授業作りを実現できている。</p> <p>3 パワーポイントを活用した授業に加え、Google Classroom を用いたオンライン授業や課題提出の実施し、ICTを活用した深い学びに向けた方策を研究し授業改善に活かした。</p> <p>4 全体の評価点のうち、20%程度を自由英作文やスピーキングテスト等の「パフォーマンス評価」にあてて、生徒の「関心・意欲・態度」や「思考力・判断力・表現力」を評価した。</p> <p>5 中止となる事業も多かったが、オンラインでの交流を実施し、生徒が体験や表現する場面を設け、生徒の意欲の維持に努めた。</p>

<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>1 授業アンケート</p> <p>(1)「この授業は自分にとって興味・関心がわく内容だった」の問いに、肯定的な回答が生徒の85%以上</p> <p>(2)「この授業は良く準備され、工夫されていた」の問いに、肯定的な回答が生徒の90%以上</p> <p>(3)「この授業のパフォーマンス評価は課題設定も評価も適切なものだった」の問いに、肯定的な回答が生徒の85%以上</p> <p>(4)「この授業はICTを活用したものになっていた」の問いに、肯定的な回答が生徒の80%以上</p> <p>(5)「この授業はアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたものになっていた」の問いに、肯定的な回答が生徒の80%以上</p> <p>(6)「この授業は思考力・判断力・表現力の養成を重視したものだった」の問いに、肯定的な回答が生徒の85%以上</p> <p>2 学校満足度アンケート</p> <p>(1)「SSHによって、発表する力(レポート作成力、プレゼン力)が増したか」の問いに、肯定的な回答が生徒の75%以上</p> <p>(2)「授業では生徒同士の話し合いや発表がよく行われているか」の問いに、肯定的な回答が生徒の80%以上</p>	<p>&lt;数値結果&gt;</p> <p>1 授業アンケート</p> <p>(1)「この授業は自分にとって興味・関心がわく内容だった。」の問いに、90.0%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(2)「この授業は良く準備され、工夫されていた。」の問いに、94.1%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(3)「この授業のパフォーマンス評価は課題設定も評価も適切なものだった」の問いに、96.4%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(4)「この授業はICTを活用したものになっていた」の問いに、79.7%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(5)「この授業はアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたものになっていた」の問いに、85.0%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(6)「この授業は思考力・判断力・表現力の養成を重視したものだった」の問いに、91.4%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(1)、(2)、(3)、(5)、(6)では目標を達成したが、(4)は目標にわずかに届かなかった。</p> <p>2 学校満足度アンケート</p> <p>(1)「SSHによって、発表する力(レポート作成力、プレゼン力)が増したか」の問いに、81.3%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(2)「授業では生徒同士の話し合いや発表がよく行われているか」の問いに、91.2%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>(1)、(2)ともに目標を達成した</p>
<p>3 実施事業</p>	
<p>【高等学校課事業】</p> <p>(1) 社会人講師活用事業</p> <p>中国語の講師を招聘し、台湾桃園市立陽明高級中学との交流に向けて、中国語や台湾の生活習慣やマナーについて学習した。実際のコミュニケーションでは英語を用いることが予想されるため、学んだ内容を英語でも表現できるように指導した。派遣自体は中止になったが、オンライン交流を実施した。</p> <p>(2) 県立高校・大学教員の教員交流事業</p> <p>鳥取大学 難波 栄二 教授、竹内 隆 教授を招聘し、生命科学コースの生徒を対象に講演を実施した。講演を通して、英語で科学に関する評論や口頭発表する際の基礎的な知識を学んだ。</p> <p>2 新しい学びの創造事業</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」教員スキルアップ事業</p> <p>指揮者 中井 章徳 氏(元くらしき作陽大学講師)による「指揮から学ぶ音楽表現」を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止した。生徒の表現力の育成について、英語教育にも生か</p>	

せる機会の予定であった。

(2) 生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座

鳥取大学教育支援・国際交流推進機構准教授 桐山 聡 氏による講演「論理的思考力を可視化するためのポスターセッション技術」を通じて、生徒は実践的な表現力を学び、んだ。

(3) 表現力パワーアップ事業

高等学校課からの令達はなかったが、生徒は内外コンクールやコンペに積極的に打って出た。総参加者は98件・1130人であった。(英語関連は、7件・40人)

3 大学入試改革に向けた英語力向上対策事業

(1) GTEC for Students 受検

GTEC 検定版を1年次生311名、2年次生307名が受検した。

【学校独自事業】

1 アクティブ・ラーニング推進事業

(1) エキスパート教員等との授業交流

全国的に著名なエキスパート教員を招聘して実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症への感染予防のため中止した。

(2) 探究的な学習の推進

・「課題探究応用」におけるプレゼンテーション講習

鳥取大学桐山 聡准教授によるオンライン講義を実施し、論理的思考力を可視化する方法を学んだ。

・「課題探究発展」における英語による口頭発表指導補助

「課題探究発展」で県内在住外国人による英語指導補助を9回実施した。

・探究的な学習に必要なスキル向上研修

倉敷天城高校教諭 仲達 修一 氏によるオンライン講義を実施し、SSH事業の目指すべき方向性と探究的な学習における評価のあり方とフィードバックの方法について先進的な実践を学んだ。

2 英語力向上事業

(1) 英語教員研修

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため派遣を中止し、オンライン研究会 (ELEC 冬期英語教育研究会、ブリティッシュ・カウンシル中高英語教育ワークショップ) に1名ずつ参加した。

3 国際交流事業

(1) 台湾桃園市立陽明高級中学の受け入れ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、受入を中止した。

(2) 台湾桃園市立陽明高級中学の訪問

新型コロナウイルス感染症への感染予防のため派遣を中止した。オンライン交流を実施し、SDGsの観点から「健康的で持続可能な食習慣」について英語で意見交換を行った。

4 世界で学ぶ Tickets-to-the-World 事業

(1) Tickets-to-the-World Library

昨年度のグローバルリーダーズキャンパス受講者や留学から帰国した生徒が、自らの体験や学習した内容を報告した。

(2) 異文化・国際交流講演会

国連パレスチナ難民救済事業機関 ボルトン 直道 氏によるオンライン講演会を実施し、国連の行う開発協力の現状と課題について学んだ。

4 総合所見 (成果・評価)

## 【高等学校課事業】

### 1 外部人財活用事業

#### (1) 社会人講師活用事業

日本とは異なる生活習慣について学ぶなど、異文化に対する理解を深めることができた。また、オンライン交流では、学んだ中国語に加え、英語も使い、英語がコミュニケーションツールとして役立つことが実感できた。予定時間を超えても交流が続き、相互理解が深まった。

#### (2) 県立高校・大学教員の教員交流事業

生命科学コースの生徒は、講義をとおして、生き物の形の形成や、多くの遺伝病があり、検査によって将来の発病可能性を予測することができることについて学んだ。生徒にとっては、大学レベルの講義を聞く貴重な機会となり、技術的にも倫理的にも考えることが多い内容で、英語での評論を読む上での基礎的な知識を得た。

### 2 新しい学びの創造事業

#### (1) 「主体的・対話的で深い学び」教員スキルアップ事業

新型コロナウイルス感染症感染拡大により本事業の研修の実施を中止したが、英語科でも Chromebook の活用をテーマに公開授業を実施し、「主体的・対話的で深い学び」について学ぶ具体的な機会を設けた。

#### (2) 生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座

事後アンケートによると物事を論理的に考える能力、問題を発見する力、問題を解決する力が向上したという回答が多かった。また、ポスターセッション技術だけでなく、研究への意識の向上が見られるコメントもあった。今年度のSSH研究成果発表会はコロナ感染症対応のため中止となったが、発表会にむけて生徒のテーマがより実態に沿ったものに改善された。

#### (3) 表現力パワーアップ事業

総参加件数・予選通過件数はともに、令和2年度よりも増加し、生徒が多様な挑戦を続けている状況にあるが、参加総人数は、夏場の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて減少した。英語関連では、件数・人数ともに、令和2年度よりも増加した。今年度は、中国高等学校英語スピーチコンテストで2位を受賞する生徒が出ている。

### 3 大学入試改革に向けた英語力向上対策事業

(1) 1年次生はここ3年間で最も良い成績にあり、2年次生はリーディングに強みをもつ。GTEC for Students 受検を通じて、英語4技能の向上を図っており、習得状況を測定するツールとして活用できている。

## 【学校独自事業】

### 1 アクティブ・ラーニング推進事業

#### (1) エキスパート教員等との授業交流

全国的に著名なエキスパート教員を招聘して、アクティブ・ラーニングの研修を行う計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症への感染予防のため中止した。年度当初からパフォーマンス評価等による授業改善などを適切に行うとともに、校内では英語のエキスパート教員が Chromebook や ICT を活用した授業を校内外に公開し、教員の教科指導力を向上させ、学習に主体的に取り組む生徒を育成した。

#### (2) 探究的な学習の推進

##### ・「課題探究応用」におけるプレゼンテーション講習

「課題探究応用」では、プレゼンテーション講習は、昨年のものから演習を重視し実践力の向上を目指したものに内容を改善し実施できた。また、学校満足度アンケート「SSHによって発表する力(レポート作成力、プレゼンテーション力)が増したか」の間に、81.3%の生徒(昨年72.3%)が肯定的な回答をした。

##### ・「課題探究発展」における英語による口頭発表指導補助

「課題探究発展」では、3年生8名が英語口頭発表準備を行った。SSH研究成果発表会は中止しとな

ったが、英語での表現力・発信力とともに発表手法・技術を磨くことができた。

・探究的な学習に必要なスキル向上研修

探究に関わる全教員を対象として実施し、SSH事業の意図と生徒の育成について、教員間で意識の共有と指導力の向上が図られた。

## 2 英語力向上事業

### (1) 英語教員研修

英語教育に関する研修会に参加し、英語4技能を伸ばす授業の実践方法などを学んで指導力を向上させ、生徒に還元した。

## 3 国際交流事業

### (1) 台湾桃園市立陽明高級中学の受入 中止

### (2) 台湾桃園市立陽明高級中学の訪問

語学力だけでなく異文化や国際的な課題への理解を深めた。交流では、SDGsの観点から「健康的で持続可能な食習慣」について、台湾の高校生と英語で議論し交流を深めるとともに、コミュニケーションの本質についても学んだ。

## 4 世界で学ぶ Tickets-to-the-World 事業

### (1) Tickets-to-the-World Library

報告をする生徒が、自らの体験を振り返り、言語化することで、体験の意味を明確にすることができるとともに、自らの体験を他の生徒に還元することができた。報告を聞いた生徒に自分でも挑戦してみたいという意欲を喚起することができた。英語を使用する具体的なイメージがもて、英語学習への良い動機付けとなっている。

### (2) 異文化・国際交流講演会

国際貢献について具体的な話を聞くことで、自分の進路目標を明確にする良い機会となるとともに、英語を使って仕事をするイメージが湧くことから、英語学習の重要性を理解できる有意義な機会となっている。

※枚数任意